

2018年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/米国泌尿器科学会 (AUA) 交流プログラム

2018 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

井 上 聡 (名古屋大)

私は2018年度のJUA/AUA Academic Exchange Programに参加させていただきましたのでご報告いたします。2018年の日本泌尿器科学会総会終了後よりアメリカ泌尿器科学会までの約3週間、テキサス州ヒューストンのMD Anderson Cancer Centerで病院・手術見学をさせていただきました。MD Anderson Cancer Centerはテキサス州立大学の附属施設でアメリカ国内で最初に設立された癌センターです。

研修初日に腎癌で著名なDr. Matinによるロボット支援腎部分切除術を2件見学しました。帰りにDr. Matinがドライブに連れて行ってくれて最初から充実した生活を送ることができました。研修2日目に私の研修の指導医であるDr. Navaiに会いました。彼は紳士的かつフレンドリーで、私のつたない英語での質問に丁寧に答えていただき研修中大変勉強になりました。研修中は主に手術を見学していました。手術は朝7時から始まり夕方には終わります。手術室は約30室、DaVinciは5台あり、泌尿器科は基本的に2、3台同時に使用していますので、ロボット手術を始めとした数多くの手術を見学しました。Dr. Chapin, Dr. Davisは前立腺癌、Dr. Matinは腎癌、上部尿路癌、Dr. Navaiは膀胱癌と、各々専門分野のみの手術を数多く行っており、手術が円滑に効率的に進んでいたのが印象的でした。一筋縄ではいかない症例に対しても慌てることなく落ち着いて対処して手術を遂行しており、非常に勉強になりました。また、麻酔のライセンスを取得した看護師が麻酔をかけたり、ロボット手術の助手のライセンスを取得している器械出し看護師が助手として参加するなど、医師以外の医療従事者も専門性を身につけており、アメリカの医療は専門分化が進んでいると実感しました。さらにDaVinciによる腎尿管全摘、被膜下前立腺腫核出術を見学し、ロボット手術で可能なものはロボットで行っていることが刺激的で、日本も今後そのような流れになるかもしれません。

手術以外にDr. Navaiの外来を見学する機会がありました。外来業務は効率性を考え仕事が多業化されていました。ポスドク、事務が介助することで主治医の仕事が軽減されているのが特徴的です。また、抄読会にも参加し、ポスドクのプレゼンテーションの内容が洗練されていて、レベルの高さに驚かされました。

その他にも貴重な経験を得ることができました。中国、イギリス、アルゼンチンからMD Andersonに来た交換留学生と交流を深め、研修中に助け合ってよりよい研修を積むことができました。ポスドクが受講する、献体を使用したロボット手術のトレーニングにも参加させていただきました。さらに、Dr. Chapinらが我々のために食事会を開いていただき楽しい時間を過ごすことができました。Staffの方々に感謝の気持ちで一杯です。

最後になりましたが、私を快く送り出して下さった名古屋大学泌尿器科の皆様、このようなプログラムを用意して下さいましたJUA・AUA両学会の方々に心より感謝申し上げます。



UrologyのStaffとの食事会



交換留学生と手術室の前で